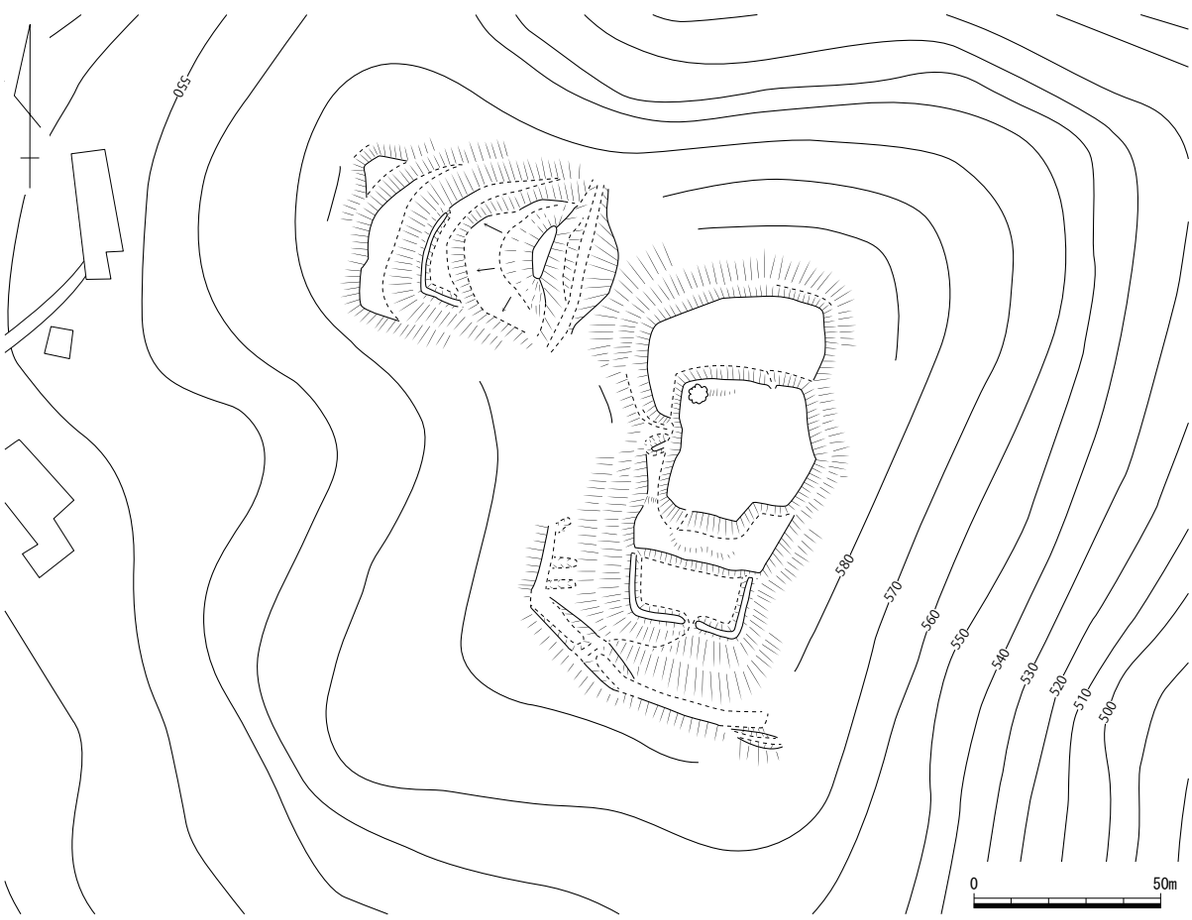
111　紫（むらさき）城跡　　高梁市備中町平川　　地図 16 左

立地　新成羽川ダムの南西側にあり、標高約 600 m級の山塊から北へ派生した尾根先端頂部に位置する。吉備高原上にあり、背後の北側は成羽川まで比高差が約 300 mを超える。

概要　大きくは頂部にある主郭と、その北側背後に 1 面、南側前面に 2 面の曲輪を連ねる山城である。主郭は 40 m四方のほぼ正方形を呈している。規模も大きく、精美な平坦を造っている。南東側辺には折れを持ち、北西側辺には井戸状の窪みがある。主郭前面にある曲輪の内、先端の曲輪は辺部を土塁で囲んでいる。主郭背後の曲輪も、長さ約 20 m、幅約 45 mと規模が大きい。この曲輪群は四周を高い斜面によって守られているが、斜面下の南側と西側に堀切を設けている。南側堀切には土橋状の施設があり、ここから主郭前面の土塁に囲まれた曲輪まで現在でも道が続いている。本来この部分を入口として意識していたものと思われる。西側堀切の先にある尾根平坦地にも、数面の曲輪が築かれており、中には土塁で囲んだ曲輪も含まれている。主郭の西側に虎口状の施設があるが、この箇所は西側曲輪群との連絡口であったであろう。

本城は全長こそ中型であるが、主郭周辺の曲輪の規模と造作がしっかりしており、平川地域の中核をなす山城として位置付けられると考える。

文献・伝承　『平川家由緒書』では平川氏の居城、『備中村鑑』に藤原資親在城とする。　（小林）



第 95 図　紫城跡縄張り図（1/2,000）